



安倍首相は第189回

国会における施政方針演説(2015年2月12日)

で、「経済のグローバル化は一層進み、国際競争に打ち勝つことができないければ、企業は生き残ることはできない。政府もまた然り。オープンな世界を見据えた改革から逃れることはできません」と述べた。グローバル競

基軸

社会保障から考える
「マイナンバー」制度

⑦

自治体情報政策研究所代表 黒田充

争に打ち勝つことが国家目標とされる中で、「社会保障と税の一体改革」という名の社会保障費の適正化・効率化、

すなわち削減は避けては通れない課題とされ、「手を差し伸べるべき者」と「差し伸べ

るべきではない者」の仕分けが目論まれている。マイナンバーを使って集約される個人情報、こうした仕分けに活用さ

れることになるだろう。そして、マイナンバーの利用分野が広がれば広がるほど、仕分けはより精

確になるのか。健康保険や医療、介護、福祉、年金といった社会保障制度からの排除や制限が行わ

れ、余命の短縮という形で死がもたらされることになると同時に、マイナンバーの民間利用が本格化し、

余命短縮もたらす懸念

仕分けで社会保障から排除も

医療や健康などに係わる個人情報やビジネスに利用できるようになれば、医療や介護などのより一

層の市場化——要するに「命の沙汰も金次第」——に大いに貢献することになる。

同時に、マイナンバーの民間利用が本格化し、

入の是非を考える際には、国民はどれだけ便利になるのか、行政の合理化にはどうつながるのかといった面だけではな

く、それが政策として出されてきた経緯や背景を見る必要があるであろう。そして、それが社会保障に何をもちたそうと

しているのか、また、そもそも社会保障とは何かにまで立ち返って検討する必要があるのではないだろうか。(おわり)